



WILD BIRD SOCIETY OF JAPAN・SAITAMA

しらこぼと

2014.3

No.359

日本野鳥の会 埼玉

S H I R A K O B A T O

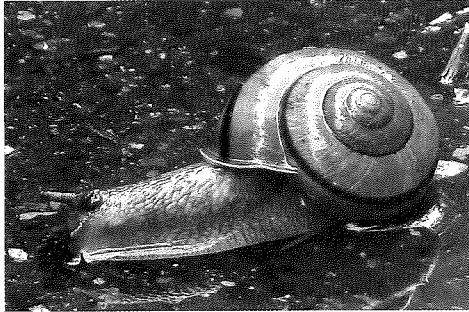


秋ヶ瀬公園と周辺の小動物

海老原美夫(さいたま市)

前回 2013 年 6 月第 350 号の哺乳類に続いて、今回は「小動物」。あまりにも範囲が広すぎるのでまず鳥、哺乳類、虫や魚を除く。次に外来種をカット。数が多くて日常普通に見られる種を削る。私のよく分からない種は無視する……とやっていったら、7 種しか残らなかった。

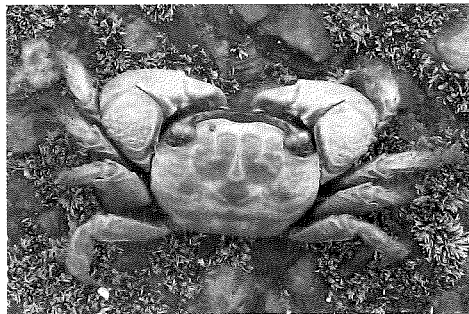
ヒダリマキマイマイ



まずは軟体動物から。日本産カタツムリの大部分は右巻きだが、本種など少数が左巻き。右巻きと左巻きの区別は、殻頂を上、殻の口を自分の方に向けて置く。殻の口が右にあれば右巻き、左にあれば左巻き。実際に手にしなくても、頭の中でひっくり返してみればすぐわかる。

成貝は殻径 50mm ほどで比較的大きい。東北・関東・中部地方の湿った森林などに生息し、半樹上性。市街地や水田などでは少なく、近年減少していると言われる。

クロベンケイガニ



節足動物甲殻類。甲羅の幅は 40mm ほど。秋ヶ瀬公園周辺の水路に水がある時はたくさんの穴が掘られ、人が近づくと素早く逃げ隠れ

る。水がないときは荒川に移り、水路から姿を消す。かと思うと、思いがけない所に現れることもある。この写真は桜区役所近くの舗装道路上で撮影した。鴨川を遡上してきたものと思う。産卵は海まで下るといふ。本種は直接海に繋がっている。

小学校の遠足で秋ヶ瀬まで歩き(ずいぶん遠く感じた)、級友たちと追いかけて遊んだのは、このカニだったろうと思う。

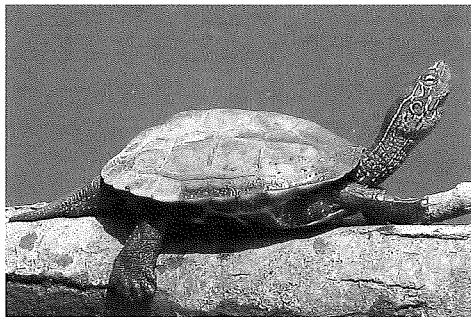
ヤマアカガエル



脊椎動物両生類。最近サギ類が田んぼで捕食しているのは、みなトウキョウダルマガエルだ。そういえば子供の頃にはアカガエルというカエルもいたけど、あれはどうしたのかなと思っていたら、公園内の薄暗い林床で、はねて逃げる小振りのカエルがいた。ヤマアカガエルだ。山地にも棲むが、平地でニホンアカガエルと混在することもあり、水田ではなく、草むらや森林などにいる。

この写真、実はニホンアカガエルかと思っていたが、よく見直したら、背側線の様子に加え、他の写真で下顎縦斑が写っているものがあり、これらはヤマアカガエルの特徴を示している。ニホンアカガエルもヤマアカガエルも、日本固有種だ。

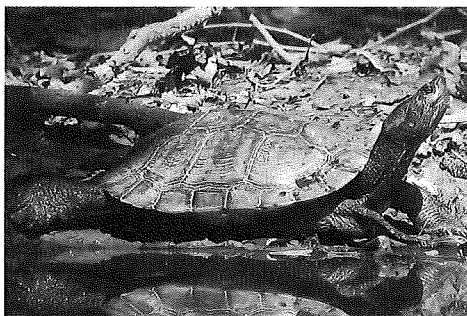
クサガメ



脊椎動物爬虫類。今、公園の池に限らず、どこの水辺でも、カメと言えばミシシippiaカミミガメ(幼体商品名ミドリガメ)ばかり。でも、まれにクサガメが現れることもある。背甲にある3本の筋状の隆起(キール)が見た上での特徴だが、手に取ってみるとはっきりくさい。そのくささが本種の一番の特徴で、名前の由来だ。

オス成体は黒化する。2013年9月、黒化した個体と、まだ顔の模様などが鮮やかな若い個体が、並んで日光浴しているのを見かけた。はじめての事だった。老若並んでいる景色は、心強い。IUCN(国際世界自然保護連合) Red List 絶滅危惧種。

ニホンイシガメ



IUCN Red List 準絶滅危惧種だが、この地域では、こちらの方が少ない。やや流れのある流水域を好むせいか、公園内の池で見るのはまれ。背甲にクサガメのような明瞭な3本のキールはない。♀成体の背甲は少し盛り上がるが、幼体や♂成体の背甲は扁平。くさくない。これも日本固有種。

幼体をゼニガメと呼んで販売していたが、近年ではクサガメの幼体をゼニガメと呼ぶこ

とが多いとか。ややこしい話だ。

ニホンマムシ



日差しの強いサイクリングロード脇で、頭を自転車にひかれたらしいマムシの幼蛇が、じっとしていた。「お前、干からびているのかよ」と棒でつついたら、棒にかぶっと嘔みついた。おお怖！ 死んでいると思っても、決して安易に手を出さないように！

ここに秋ヶ瀬公園ができる前、水田と林が交互に広がっていたころは、どこにでもいて、マムシ取りの人たちにもよく出会った。その頃に比べるとめっきり数が少なくなっている。

太い胴、独特の斑紋などで識別は容易。咬まれた場合の死亡率は高くないと言うが、半年も入院した例もあるとか。油断できる相手ではない。

ヒバカリ



育てば全長60cm以上にもなるというが、写真の個体はせいぜい30cm位。あまり小さくて、へびとは思えないほどだ。かつては毒へびと考えられ、「咬まれたら命はその日ばかり」と、その名がついたが、実は無毒。平地から低山の森林に生息すると言うが、昔からほとんど見かけない数少ないへびだ。

オオヨシキリの歌声のこと

てこり(さいたま市)

音楽の3要素というものがある。メロディー、ハーモニー、それにリズムだ。しかし実際のところそれだけでは聴くに堪える音楽にはならないようだ。実際に楽曲を作ってみて感じることは音の響き方一つで聴いた感じがずいぶん変わるのである。いわゆる残響効果である。身の回りでは、湯船で心地よく歌う鼻歌がある。歌がうまくなった気がする。歌だけではなく、洗面器を一つ床に落とすだけでもなかなかよい音がする。カラオケも似的。プロの製作現場では、音の残響効果を演出する機器が使われている。昔は高価すぎて素人には手が届かないものだったが、最近ではデジタル技術の進歩のおかげで比較的容易に利用できるようになっている。

森の中で聴く小鳥たちのコーラスは実に心地よい。これは森全体がほど良い残響を与えるコンサートホールのように思われる。森には谷もあるし、谷がなくても斜面があつて小鳥の歌声を反射してくれる。しかしそれより重要なのは樹木なのではないかと考える。木の樹皮は堅いうえに表面がでこぼこしていて音響効果抜群の素材なのではないか。また葉っぱの方は吸音素材として、響きをまろやかにしてくれる。しかも小鳥たちはたいてい樹木の真中あたりかそれより少し上でさえずるから、その発した音は360度すべての方向から反響音として返ってくる。こんなすてきなコンサートホールは自然には森以外にないだろう。

ところで、樹木のほとんどない所でも絶妙なコーラスを聴かせてくれる小鳥たちがいる。オオヨシキリ、オオセッカなどアシ原にいる小鳥たちだ。ところが、彼らに利用できる道具立ては地面しかない。もちろん場所によっては土手や橋梁などもある。しかし人が作る以前はひたすら真つ平らな地面しかなかったはずだ。彼らは人が作ったものに頼って生きてはいない。地面といつても残響効果がある

のは直下の部分だけではなく、地面がごつごつしていることを考えると、周囲の地面からの反響も期待できるかもしれない。だとしても森に比べれば貧弱だ。上空や横方向へ向かった音は返ってこない(注:ここから先の話は全部筆者の勝手な独断です)。

そこで自分の歌を上手に聴かせたいオオヨシキリは考えた。かどうか知らないが、音を短く切って、反響音が元の音と重ならないようにした。ギョッ、ギョッ、シッ、だ。そのうちに強い音の後に弱い音を入れると最初の反響音と重なって絶妙な響きが生ずることに気づいた。こうして彼らは強弱の対比感のあるジャズのようなリズムを愛用するようになったのに違いない。森林にいる恵まれた小鳥たちが長めの音節の、切れ目の少ないさえずりをするのと対照的に。そういえばアシ原に限らず開けた場所にいる他の小鳥たちも、リズム感のあるさえずりをするものが多い。オオセッカなどは切れ目なくさえずるように聴こえるが、よく聴くと強弱のリズムを高速で繰り返している。

初夏のアシ原ではオオヨシキリの自信に満ちた歌声が響きわたる。そうなのだ。かれらは自分たちの歌声に絶大な自信を持っている。かれらはアシ原という最高の舞台上、すばらしい歌を披露する術(すべ)を見つけ出したのだから。



オオヨシキリ(編集部)



野鳥情報

- 戸田市彩湖** ◇11月18日、しっかり冬支度で出かけたものの少し歩くと汗ばむほどの陽気。先週末、総数で120羽程いたカモ類が本日は約半数に。オオタカが頻りに飛んでいたそのせいかも？ それでも、カンムリカイツブリ、ユリカモメがそれぞれ約40羽。他にハジロカイツブリ、ヨシガモ、ベニマシコ、アリスイ等々、ちゃんと冬の彩湖らしくなってきたかな…(石塚敬二郎)。
◇11月29日午前11時40分～午後1時10分、個体数は少ないもののカモ類がよく見られた。オカヨシガモ、ヨシガモ、ヒドリガモ、カルガモ、コガモ、ホシハジロ、キンクロハジロを確認。他にはカンムリカイツブリ20羽土、ハジロカイツブリ、オオバン、ユリカモメなど、周囲のアシ・オギ・ススキ・クズ等の草原でクイナ、ジョウビタキ(声)、ベニマシコ4羽土、ホオジロ(声)など。風が強かったためか小鳥は少なめだった(井内寛裕)。
◇12月28日、カンムリカイツブリ、カルガモ、マガモ、ヨシガモ、ホシハジロ、キンクロハジロ、ハジロカイツブリ、カイツブリ、ユリカモメ、セグロカモメ、カワウ、ツグミ、ジョウビタキみなど(陶山和良)。
- 越谷市大吉** ◇11月18日午後2時30分、古利根川、寿橋上流右岸300m地点の砂礫地帯でイカルチドリ20羽の群れにタカブシギ1羽。幼羽と思われる。11月22日午後3時頃、同じ場所でイカルチドリ23羽の群れの中に混じるタカブシギ1羽を発見。羽衣の状態から18日と同じ個体と思われる。この場所でタカブシギを見るのは初めて。砂礫の環境、時期からみても珍しい感じ。イカルチドリの中で越冬するのか？ この時期、この場所ではイカルチドリの群れ20羽～30羽の他にイソシギ、セグロセキレイ、ハクセキレイ、数種のカモ類、カモメ類(ユリカモメ、セグロカモメ)が見られる(植平 徹)。
- さいたま市岩槻区岩槻文化公園** ◇11月21日午前11時頃、アオジとウグイスの姿を探していると、後ろから聞き慣れない声があるので、振り返るとビンズイが桜の枝の間をちょこ

まか動き回っていた。この場所でビンズイを見るのは1998年1月以来(菊川和男)。

久喜市菖蒲町柴山 N36.0419 E139.6004

◇11月27日、ミヤマガラス成鳥50羽土。コクマルガラスはいなかった(長嶋宏之)。

坂戸市浅羽ビオトープ ◇12月3日午前10

時5分、竹やぶ内の少し開けた所に、クロジ1羽とガビチョウ1羽。やぶ内に入出入りを繰り返す。10時50分頃、駐車場近くの電線にとまっているチョウゲンボウ♂1羽。下の田んぼに、急降下を繰り返す。餌りのようだ。12月8日午前9時10分頃、電線にとまっているチョウゲンボウ♂に、ハシボソガラスがモビング。その後、駐車場上空で空中戦。チョウゲンボウが逃げて鉄塔にとまると、追っかけてカラスもとまる。9時40分頃、ビオトープ上空を東南方向から西北方向に、ハイロチュウヒ♂1羽が飛翔。自己初認。ワンド手前上空で、オオタカとチョウゲンボウが追いつ追われつ、時にはもつれ合う戦いを冬のビオトープの空に熱く繰り返ひろげた(増尾 隆)。

川越市伊佐沼 ◇12月5日午後2時頃、ヘラ

サギとトモエガモ、2種の珍客のツーショットが見られた。滅多にない光景ですね(大川清久)。

滑川町 武蔵丘陵森林公園 ◇12月7日、山

田大沼で約1000羽いたカワウが1羽もいない。どこかに移動したようだ。営巣木の下ので糞で汚れていないことから、数ヶ月の間、いない日が続いているように思われる。上空を旋回して、様子を見て通過するカワウが数羽いたが、その内、降りたカワウは1羽のみ。その個体も後で飛び去るかもしれない。カワウがいなくなった原因が解れば、他の場所でのカワウ対策に応用できるかも知れない(長嶋宏之)。

さいたま市岩槻区岩槻文化公園 ◇12月9日

午後2時頃、シジュウカラ、コゲラ、メジロ、エナガの混群を観察しているとルリビタキの声がする。暫し待っていると、♂1羽が姿を見せてくれた。地元でルリビタキのみを見るのは数年ぶりのことで少し興奮してしまった。この後、♀も1羽見られた(菊川和男)。

久喜市久喜菖蒲公園 ◇12月11日、昭和沼でアメリカヒドリ♂1羽。ハシビロガモ♀エクリプスもしくは若鳥3羽♀1羽の群れ。この池でハシビロガモは珍しい。この冬もセグロカモメが1羽来ている。亜種オオカワラヒワが梢に3羽、今季初認(榎本秀和)。◇12月27日、浮島にオオタカがいて、側にカワセミが枝にとまっていた。アシ原にオオジュリン9羽(昨年いた白いオオジュリンは居なかった)。オオバン24羽が陸で採餌。亜種オオカワラヒワ40羽士の群れがケヤキの梢を飛び交っていた。他にヒドリガモ、カルガモ、オナガガモ、マガモ、ヨシガモ♂5羽♀2羽、ホシハジロ、キンクロハジロ、カンムリカイツブリ、カイツブリ、ジョウビタキ、ツグミ、カワラヒワなど(長嶋宏之)。

蓮田市西城沼公園周辺 ◇12月11日、植木の根元から何かが横に飛んだ。シロハラだった。今季初認。12月16日、林床でキジバト20羽+が採餌。最近キジバトの群れが目につく。12月26日、ナラ林でエナガ4羽とシジュウカラ、メジロ、コゲラの混群がせわしく採餌。植木畑の小路でシロハラが飛び出した。今季初撮り。3羽のカケスがカシから鳴きながら飛びだした。1羽がドングリをくわえていた(長嶋宏之)。

川島町吹塚 ◇12月23日、田んぼでシラコバト9羽。自分のフィールドでこんなに多数を見たのは初めてです(岡部 悟)。

春日部市増田新田 ◇12月22日午後4時頃、県道野田岩槻線・増田新田交差点の南西(スーパー「アピタ」の南東)の田んぼで採餌するミヤマガラスの集団を確認。70~80羽、もしかして100羽近かったかも。コクマルガラスはいなかった(石川敏男)。

さいたま市緑区芝川第一調節池 ◇12月24日、3時間かけて一回り。オオハクチョウ1羽、ミコアイサ♀2羽、カモ類7種。チュウヒ2羽、1羽は頭白く、目はチョコレート色。幼鳥だね(野口 修)。

川島町出丸中郷 N35. 9499 E139. 5353 ◇12月24日、三ツ又沼ビオトープでニシオジロビタキ1羽、「ビティティティ」と盛んに鳴いて、地上に降りては近くの枝に舞い上

がっていた(長嶋宏之)。



12月15日同所で撮影 小島寛(鳩山町)

さいたま市岩槻区大口 ◇12月27日午後2時15分以降、スーパー「アピタ」の南側の田んぼに、南方から数波に分かれて続々とミヤマガラスの群れが飛来し、急旋回して舞い降り、採餌を始めた。成鳥と若鳥の大群(約300羽)の中にコクマルガラス1羽(黒色型)を認めた。その内、何かに驚き県道野田岩槻線沿の電線に舞い上がった。横並び個体をスコープチェックしたが、コクマルガラスは1羽しか認められず。他に、コサギ、アオサギ、ハシボソガラス、ツグミ、タヒバリ、ハクセキレイ、ムクドリ、スズメ、キジバト(石川敏男)。

戸田市道満グリーンパーク ◇12月28日、カワセミ♀1羽、3回目のダイビングで小魚ゲット、カイツブリ、オオバン、カルガモなど(陶山和良)。

蓮田市馬込 ◇12月28日、老人センターの傍でシジュウカラ40羽位の群れ中にジョウビタキ♀1羽(本多己秀)。

白岡市西 N36. 0126 E139. 6496 ◇12月30日、元荒川八幡橋下流で3羽のタシギが肩を寄せ合って日向ぼっこ。その傍らをイソシギ1羽とイカルチドリ2羽が忙しく採餌。他にカルガモ、コガモ、オナガガモ、カワウ、ダイサギ、ハクセキレイなど(長嶋宏之)。

表紙の写真

キツツキ目キツツキ科アカゲラ属コゲラ

洗車していてふと耳をすますと、公園の桜の木の幹を突つく音がした。慌ててカメラを取りに家に戻って、大急ぎで撮影。

宇野澤晃(さいたま市)



行事案内



ヒレンジャク(久保田忠資)

「要予約」と記載してあるもの以外、予約申し込みの必要はありません。集合時間に集合場所にお出かけください。

初めての方は、青い腕章の担当者に「初めて参加します」と声をおかけください。参加者名簿に住所・氏名を記入、参加費を支払い、鳥のチェックリストを受け取ってください。鳥が見えたらリーダーたちが望遠鏡で見せてくれます。体調を整えてご参加ください。

参加費：未就学児無料、会員と小中学生 50 円、一般 100 円。

持ち物：筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、持っていれば、双眼鏡などの観察用具もご用意ください。なくても大丈夫です。

解散時刻：特に記載のない場合正午から午後 1 時ごろ。

積雪など悪天候の場合は中止、小雨決行。できるだけ電車バスなどの公共交通機関を使って、集合場所までお出かけください。

3 月は鉄道・バスの時刻表変更があります。この案内は、執筆当時の時刻表に基づいています。変更にご注意ください。

蓮田市・黒浜沼探鳥会

期日：3 月 2 日（日）

集合：午前 8 時 45 分 JR 宇都宮線蓮田駅東口バス停前。または午前 9 時、環境学習館前。

担当：玉井、青木、内田、榎本（建）、小林（み）、田中、長嶋、長野、菱沼（一）、星野、吉安

見どころ：この季節、冬鳥達は北への帰り支度が始まると同時に、ウグイスの囀りなど春に向けて様々な変化が現れます。そのような春の兆しを道端の早春の野の花と併せて探しましょう。

ご注意：駐車場は、北側に新しく出来た「緑のトラスト保全第 11 号地 黒浜沼駐車場」をご利用下さい（環境学習館まで徒歩 1 分）。

熊谷市・大麻生定例探鳥会

期日：3 月 9 日（日）

集合：午前 9 時 30 分、秩父鉄道大麻生駅前。

交通：秩父鉄道熊谷 9:09 発、または寄居 8:50 発に乗車。

担当：新井、鶴飼、倉崎、田島、千島、飛田、中川、村上、茂木

見どころ：大麻生野鳥の森にレンジャクが大挙してやってきたのは、5 年前のことでした。今年はそのときと同様にヤブランがたくさん実をつけています。期待しています。

加須市・加須はなさき公園探鳥会

期日：3 月 9 日（日）

集合：午前 8 時 40 分、東武伊勢崎線花崎駅南口階段下。集合後徒歩で現地へ。または午前 9 時、加須はなさき公園駐車場。

交通：東武伊勢崎線春日部 8:14→久喜 8:27→花崎 8:34。JR 宇都宮線大宮 7:53→久喜 8:15 で東武伊勢崎線乗り換え。

共催：加須はなさき公園管理事務所

担当：長嶋、相原（修）、相原（友）、石川、植平、菊川、竹山、星野、茂木、渡邊

見どころ：早春の陽光のなか、身近な野鳥を 1 羽 1 羽丁寧に見て回ります。見慣れた野鳥のチャームポイントを皆で探しましょう。驚く発見が有るかもしれませんよ！

『しらこぼと』袋づめの会

とき：3 月 15 日（土）午後 3 時～4 時ころ

会場：会事務局 108 号室

さいたま市・三室地区定例探鳥会

期日：3 月 16 日（日）

集合：午前 8 時 15 分、京浜東北線北浦和駅東口、集合後バスで現地へ（注意：担当者は 8 時過ぎに北浦和駅東口到着予定です）。または午前 9 時、さいたま市立浦和博物館前。

後援：さいたま市立浦和博物館

担当：青木、赤堀、浅見、楠見、倉林、小菅、小林（み）、柴野、須崎、新部、畠山、増田、若林

見どころ：さようなら、ジョウビタキ。こんにちは、ツバメさん。いつも元気なホオジロさん。皆さまといっしょに色々な鳥を探しましょう。

松伏町・松伏記念公園探鳥会

期日：3月16日（日）

集合：午前9時30分、松伏記念公園北口駐車場。

交通：東武伊勢崎線北越谷駅東口、①番バス乗り場から、茨急バス 8:57 発エローラ行きで「松伏高校前」下車。

担当：田邊、植平、榎本(建)、佐藤、佐野、進士、野村(修)、野村(弘)、橋口、森下、吉岡

見どころ：冬鳥と夏鳥の交代という季節のうつろいを身近な場所で体感しようと計画した探鳥会です。春を満喫し、鳥はもちろん、足元の春の草花や虫たちも見ながら楽しく元気に田園地帯を歩きましょう。親子連れにもきっと満足していただける探鳥会です。

坂戸市・高麗川探鳥会

期日：3月21日（金・祝）

集合：午前8時、東武越生線川角駅前。

交通：東武東上線川越7:19(準急)→坂戸で越生線乗り換え7:40発。または寄居6:43→小川町乗り継ぎ、坂戸で越生線乗り換え。JR川越線大宮6:37→川越で東武東上線乗り換え。

担当：山口、久保田、志村、杉原、鈴木、高草木、藤掛、藤澤、増尾、持丸

見どころ：今年は例年より10日ほど遅い開催です。桜の開花も近い探鳥会です。残っている冬鳥、いつもの留鳥、そして足元の草花も楽しみましょう。お弁当を食べながらの交流も楽しいですよ。

長瀨町・宝登山探鳥会

期日：3月21日（金・祝）

集合：午前9時40分、秩父鉄道長瀨駅前。

交通：秩父鉄道熊谷 8:52 発→寄居 9:21 発に乗車。

解散：正午ころ、宝登山山頂梅園前。

担当：井上、鶉飼、小池、佐久間、堀口、松下

見どころ：早春の山野草も楽しみながら、赤・青・黄の鳥に期待します。梅百花園では色とりどりの花が咲き、秩父方面が一望できます。

ご注意：長瀨駅近くにコンビニはありません。履きなれた靴と飲み物を用意してください。

栃木県・日光東照宮裏山探鳥会

期日：3月22日（土）

集合：午前9時25分、東武日光駅前。集合後路線バスで「総合会館前」まで移動。

交通：東武春日部7:44発スカイツリーライン快速→東武日光9:22着、または東武栗橋7:57発新栃木行→板倉東洋大前で8:11発「快速」東武日光行きに乗り換え、東武日光9:22着。

解散：午後2時ごろ、神橋付近にて。

担当：浅見、植平、佐藤、佐野、玉井

見どころ：沢ではミンサザイが囀り始めます。道の両側の木立にはカラ類。目を凝らせばキバシリが……。日光の山々を背景にタカが飛ぶことも期待。

寄居町・玉淀河原探鳥会

期日：3月23日（日）

集合：午前9時30分、寄居駅南口駅前広場。

交通：秩父鉄道熊谷8:52発、または東武東上線川越8:15発にて小川町乗り継ぎで。

担当：小池、井上、鶉飼、堀口、松下

見どころ：カワセミやイカルチドリ、シメアトリ、イカルにアオゲラなどの観察はもちろん、カントウタンポポやカタクリ、エドヒガンザクラも満開でしょう。寄居の自然をまるごとウォッチングします。

ご注意：開催日が変更になりました。河原を歩ける靴でお出かけください。

狭山市・入間川定例探鳥会

期日：3月23日（日）

集合：午前9時、西武新宿線狭山市駅西口。

交通：西武新宿線本川越 8:42 発、所沢 8:39 発に乗車。

解散：正午ころ、稲荷山公園。

担当：長谷部、石光、久保田、鈴木、高草木、中村(祐)、星、藤掛、水谷、山口、山本

見どころ：ツバメの渡って来る季節です。また、体力をつけた冬鳥は北へ旅立ちます。

夏鳥、冬鳥を欲張って見つけます。2年連続40種越え中。今年はどうかな？

さいたま市・見沼自然公園探鳥会

期日：3月29日(土)

集合：午前8時15分、JR大宮駅東口「こりすのトトちゃん」像前。または午前9時15分、見沼自然公園入口のあずまや付近。

担当：小林(み)、赤堀、工藤、柴野、野口(修)、藤掛、松村、山田

見どころ：今年も、「見沼たんぼクリーン大作戦」に参加します。公園周辺の農耕地や里山で身近な野鳥を観察しながらゴミ集め。天気が良ければ猛禽も応援に飛んでくれます。軍手、火バサミ(お持ちの方は)をご持参ください。市から参加賞が出ます。

行田市・さきたま古墳公園探鳥会

期日：3月29日(土)

集合：午前9時30分、県立さきたま史跡の博物館前レストハウス。

交通：JR高崎線吹上駅北口から、朝日バス8:47発、行田折り返し場(佐間経由)行きで「産業道路」下車、徒歩約15分。またはJR行田駅東口から、行田市内循環バス・観光拠点コース左回り9:05発で「埼玉古墳公園前」下車、徒歩約2分。

担当：相原(修)、相原(友)、大坂、岡安、内藤、竹山、立岩、野口(由)、村上、茂木
見どころ：昨年までカモ達で賑わっていた古墳の水濠も埋め立てられ、野鳥を取り巻く環境も変化しています。今年の桜の開花は順調でしょうか？春の息吹を感じながら、冬鳥たちにしばしの別れを告げましょう。

加須市・渡良瀬遊水地探鳥会

期日：3月30日(日)

集合：午前8時10分、東武日光線柳生駅前。または午前8時30分、中央エントランス

駐車場。

交通：東武日光線新越谷7:21→春日部7:35→栗橋7:57→柳生8:06着。またはJR宇都宮線大宮7:03→栗橋7:38着で東武日光線に乗り換え。

解散：正午ころ、谷中村史跡ゾーン。

担当：佐野、植平、佐藤、進士、田邊、玉井、野口(修)、茂木、山田

見どころ：ヨシ焼きが済み、谷中湖の干し上げも進んでいる季節です。冬鳥に別れを告げ、気の早い夏鳥を探しましょう。

埼玉県内 年間鳥見ランキング参加のご案内 普及部長 橋口長和

当会の鳥見ランキングも12回目を迎えます。昨年2013年(1月1日～12月31日)の鳥見総決算として、「探鳥会参加数ランキング」と「観察鳥種数ランキング」に参加してみましよう。詳細は以下の通りです。

1. 埼玉県内観察鳥種数ランキング

・埼玉県内での観察であること。県境の河川敷等で双眼鏡や望遠鏡で見える範囲は可とします。

・観察鳥種は当会の『埼玉県野鳥チェックリスト』に記載されているものとし、新種に関しては、当会野鳥記録委員会が認定した時点で加算します。

・鳥種名、観察月日、観察場所の3項目を記載したリストを送ってください。

2. 探鳥会参加回数ランキング

・日本野鳥の会埼玉が主催する探鳥会に限ります。リーダー、参加者とも1回1ポイント(宿泊探鳥会も1ポイント)とします。

・探鳥会名、実施月日の2項目を記載してリストを送ってください。

3. ランキングの参加方法

・日本野鳥の会埼玉会員に限ります。良心のもとに自己申告してください。

・リストの形式は自由です。お名前とご住所、電話番号を記載して、電子メールまたは下記住所に郵送してください。

・締切2014年3月15日(当日消印有効)

橋口長和 e-mail:



行事報告

11月16日(土) さいたま市 見沼自然公園

参加：43名 天気：晴

オカヨシガモ ヒドリガモ カルガモ オナガガモ コガモ カイツブリ キジバト カワウ アオサギ ダイサギ バン オオバン カワセミ コゲラ チョウゲンボウ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒバリ ヒヨドリ ウグイス エナガ メジロ ジョウビタキ スズメ キセキレイ ハクセキレイ タヒバリ カワラヒワ ホオジロ アオジ (32種) (番外：ドバト) ポカポカ陽気の中、ホオジロが轉る。期待したツグミ、シメ、ミヤマガラスは現れず。タヒバリとただヒバリがよく見られた。(浅見 徹)

11月17日(日) 栃木県 奥日光(戦場ヶ原)

参加：16名 天気：快晴

ヨシガモ マガモ コガモ キジバト トビ オオタカ ノスリ コゲラ オオアカゲラ ハシブトガラス キクイタダキ コガラ ヒガラ シジュウカラ エナガ ゴジュウカラ ミソサザイ カワガラス ツグミ セグロセキレイ ベニマシコ (21種) 絶好の探鳥会日和。湯川沿いでカラ達の混群に遭遇。その中のキクイタダキを観察。小滝を過ぎた所でオオアカゲラの♀を発見。識別と性別の検討会をした。泉門池では、真っ赤なベニマシコの♂が登場。みんなを楽しませてくれた。戦場ヶ原に出たからは、鳥の姿が少なくなったが、気持ち良い風が私達を包んでくれた。(入山 博)

11月17日(日) 嵐山町 菅谷館都幾川

参加：38名 天気：快晴

コジュケイ キジ カルガモ カイツブリ カワウ アオサギ ダイサギ イカルチドリ カワセミ コゲラ チョウゲンボウ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス ヤマガラ シジュウカラ ヒバリ ヒヨドリ ウグイス エナガ メジロ アカハラ ツグミ スズメ ハクセキレイ セグロセキレイ カワラヒワ シメ カシラダカ ホオジロ アオジ クロジ (32種) (番外：ドバト、

ガビチョウ) 紅葉が始まった雑木林に入るとエナガ、シジュウカラ、メジロ、コゲラの混群が出てくれた。ヤマガラも後から現れた。シメが枝にとまっていてくれ、ほとんどの人が見ることができた。キジ、アオジ、クロジ、アカハラ、ツグミは一部の人しか見られなかった。都幾川に出ると、ダイサギ、アオサギ、カイツブリ、中州でイカルチドリ。セグロセキレイ、ハクセキレイはいるが鳥が少ない。土手沿いの木にカワラヒワの群れがとまっていた。田んぼにヒバリはいたがタヒバリはまだ来ていなかった。カワセミがとまっていたが直ぐに飛んでしまった。猛禽が出ないと思っていたら、最後にカラスにモビングされているチョウゲンボウが出てくれた。(千島康幸)

11月17日(日) さいたま市 三室地区

参加：57名 天気：晴

マガモ カルガモ コガモ ヒドリガモ カイツブリ キジバト カワウ ゴイサギ アオサギ バン オオバン カワセミ コゲラ チョウゲンボウ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒバリ ヒヨドリ メジロ ムクドリ ジョウビタキ スズメ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ カワラヒワ ホオジロ アオジ (31種) (番外：ドバト) 芝川沿いを中心に歩いた。スタート早々、木の上に止まったチョウゲンボウを全員で観察した。その後もタヒバリ、キセキレイ、ジョウビタキ、アオジといった冬鳥。ホオジロ、モズ、ヒバリ、カワセミといった三室常連の鳥も観察。(須崎 聡)

11月21日(木) 羽生市 羽生水郷公園

参加：46名 天気：快晴

キジ ヨシガモ マガモ カルガモ ハシビロガモ オナガガモ コガモ キンクロハジロ カイツブリ キジバト カワウ アオサギ ダイサギ バン オオバン トビ ノスリ カワセミ コゲラ チョウゲンボウ モズ ミヤマガラス ハシボソガラス ハシブトガラス シジュウカラ ヒバリ ヒヨドリ ウグイス メジロ ムクドリ ツグミ ジョウビタキ スズメ ハクセキレイ セグロセキレイ カワラヒワ ベニマシコ シメ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン (42種) 開始早々ムジナモ自生地でノスリが電柱に止まりお出迎え、カワセミも現れる。宝蔵寺沼

ではオオバンの群れ。アシ原ではオオジュリン、カシラダカなどが見られ、ウグイスとベニマシコの声がしたが、姿を見たのは幸運な数人のみ。遠くにミヤマガラスの群れが飛び、逆方向を見ればチョウゲンボウが悠然と舞う。園内の小池には8年ぶりのキンクロハジロが現れ、最後に常連のヨシガモをじっくり観察した。(相原修一)

11月23日(土、休) 本庄市 坂東大橋

参加：18名 天気：快晴

マガモ カルガモ コガモ ホオジロガモ ミコアイサ カワアイサ カイツブリ キジバト カワウ アオサギ イソシギ ミサゴ トビ ノスリ チョウゲンボウ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス ヒバリ ヒヨドリ ウグイス セッカ ムクドリ ツグミ ジョウビタキ スズメ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ カワラヒワ ベニマシコ シメ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン (37種) (番外：ドバト) 土手ではシメ、モズ、チョウゲンボウ、ノスリなどが見られたが、鳥は少ない。ベニマシコも声だけ。河岸に向う途中で数羽のオオジュリンに出会い、全員で見られた。下見ではカモがマガモだけで心配していたが、8羽のカワアイサが出迎えてくれてほっとする。ミコアイサ♀、ホオジロガモ♀も見られた。鳥合わせの途中でミサゴが飛来し、1種追加。(新井 巖)

11月23日(土、休) 志木市 柳瀬川

参加：33名 天気：快晴

キジ ヒドリガモ カルガモ オナガガモ コガモ カイツブリ キジバト カワウ アオサギ ダイサギ コサギ オオバン イカルチドリ イソシギ チョウゲンボウ モズ ハシボソガラス ハシブトガラス シジウカラ ヒヨドリ ウグイス メジロ ムクドリ ジョウビタキ スズメ キセキレイ ハクセキレイ セグロセキレイ タヒバリ カワラヒワ ホオジロ アオジ (32種) (番外：ドバト) 従来の折り返し点をそのまま直進して柳瀬川と新河岸川合流点の「いろは親水公園」内の旧村山快哉堂裏の広場迄のコースとした。柳瀬川の左岸、水谷田圃には鳥影は少なかったが田圃の杭に止まっていたチョウゲンボウを全員で観察できた。新コースに入りイカルチドリの集まる場所で20羽が確認できた。旧村山快哉堂裏庭で

ジョウビタキの初認。合流点付近では距離は遠かったがカワウ、カモ類、オオバン等が確認できた。旧村山快哉堂前のバス停から志木駅方面又は浦和駅西口方面のバス便がある。(持丸順彰)

11月23～24日(土～日) 宮城県 蕪栗沼・伊豆沼

参加：26名 天気：晴

ヒシクイ マガン ハクガン シジウカラガン コハクチョウ オオハクチョウ マガモ カルガモ ハシビロガモ オナガガモ コガモ ホシハジロ キンクロハジロ ミコアイサ カワアイサ カイツブリ カンムリカイツブリ キジバト カワウ ゴイサギ アオサギ ダイサギ オオバン トビ オジロワシ チュウヒ オオタカ ノスリ チョウゲンボウ モズ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス ヒヨドリ ウグイス ムクドリ ツグミ ジョウビタキ スズメ ハクセキレイ カワラヒワ ベニマシコ ホオジロ カシラダカ アオジ (45種) 4年ぶりの探鳥会の復活。ガンのねぐら入りと飛び立ちの両方を蕪栗沼で観ることを目玉にした。数千羽単位のガンは圧倒的な迫力、参加者からは口々に「すごい！」と感嘆の言葉が発せられていた。シジウカラガンは100羽以上、ハクガンやオジロワシも確認でき、宿に隣接した温泉施設も好評であった。何度訪れても素晴らしい場所で、参加者全員で感動を共有できたことに感謝しながら帰途についた。(長野誠治)

11月24日(日) 蓮田市 黒浜沼

参加：39名 天気：晴

キジ カルガモ カイツブリ キジバト カワウ アオサギ バン オオバン タゲリ オオタカ カワセミ コゲラ チョウゲンボウ モズ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス シジウカラ ヒヨドリ ウグイス メジロ ムクドリ ツグミ ジョウビタキ スズメ ハクセキレイ セグロセキレイ カワラヒワ シメ ホオジロ カシラダカ アオジ オオジュリン (33種) 冬鳥の到来が遅れて心配したが、先ずツグミが1羽現れ、後で約10羽の群れが見られた。やっと到着し始めたようだ。ジョウビタキ、オオジュリン、アオジ、シメ、カシラダカ等もなんとか見つかった。田んぼに向かうと1羽ではあったがタゲリがゆっくと見られた。終盤にオオタカが上空を飛んでくれて、イタチのおまけ付き。(玉井正晴)



●東邦大学理学部野生生物保全研究センター設立記念シンポジウム「希少鳥類の未来を考える」

当会年末講演会で2回にわたりアホウドリの過去と未来について語っていただいた長谷川博先生の退職記念講演「オキノタユウ」を筆頭に、尾崎清明(山階鳥類研究所)「ヤンバルクイナ」、百瀬邦和(タンチョウ保護研究グループ)「タンチョウ」、武田広子(野田自然共生ファーム)「コウノトリ」、小林篤(東邦大学理学研究科生物学専攻)「ライチョウ」の講演があります。
日時：2014年3月8日(土)13:00~17:15
場所：東邦大学習志野キャンパス薬学部C館101号室(京成大久保駅から徒歩15分、またはJR津田沼駅北口4番乗車口京成バスで東邦大学前バス停下車)
参加費：無料
主催：東邦大学理学部生物学科
TEL 047-472-1162
e-mail toho.cwcs@gmail.com

●さいたま市緑区に写真提供

同区の区制10周年記念事業「緑区お宝100選ガイドブック」作成に際し、野鳥などの写真を提供してほしいと依頼があり、1月15日無料提供しました。

●ごめんなさいコーナー

本誌2014年1月号3ページに「天覧山タカ渡り観察グループ(代表：大塚隆廣)」と記しましたが、大塚さんは代表代行、代表は市川和男さんでした。
同2月号3ページ「恋教え鳥」の項に「イ

ザナギ」とあるのを、筆者の申し出により「イザナキ」と修正します。

●会員数は

2月3日現在1,839人。

活動と予定

●1月の活動

- 1月11日(土)『しらこぼと』2月号校正(海老原美夫、大坂幸男、小林みどり、志村佐治、藤掛保司、長嶋宏之)。
1月19日(日)役員会(司会：小林みどり、各部の報告・事務局の新パソコン購入・PDF化した過去の支部報の公開方法・その他)。
1月20日(月)『野鳥』誌を購読しない会員向け『しらこぼと』2月号を、郵便局から発送(海老原美夫)。

●3月の予定

- 3月1日(土) 研究部・編集部・普及部会。
3月8日(土) 4月号校正(午後4時から)。
3月15日(土) 袋づめの会(午後3時から)。
3月16日(日) 役員会(午後4時から)。

編集後記

九十九里浜にアラナミキンクロが出ているという。仲間が何人も行っているようだ。この編集作業が終われば私も……。しかし、冬の九十九里浜にいそいそ出かけていくのはバードウォッチャーぐらいかもしれない、夏には行かないで。(山部)
地面から少しばかり離れたところに住むようになって間もなく1年。愛用のスポーツ自転車も部屋の飾りと化している。健康診断の結果には、運動不足の影響が出ていて、住まいが及ぼす影響の大きさを実感。(森本)

しらこぼと 2014年3月号(第359号) 定価200円(会員の購読料は会費に含まれます)
発行人 藤掛保司 編集発行 日本野鳥の会埼玉 郵便振替 00190-3-121130
〒330-0064 さいたま市浦和区岸町4丁目26番8号 プリムローズ岸町107号
TEL 048-832-4062 FAX 048-825-0460 http://35.tok2.com/wbsjsaitama/
編集部への原稿 yamabezuku@hotmail.com 野鳥情報 toridayori@hotmail.com
住所変更退会などの連絡先は 〒141-0031 品川区西五反田3丁目9番23号 丸和ビル
(公財)日本野鳥の会会員室 TEL03-5436-2630 FAX03-5436-2635 gyomu@wbsj.org
本誌掲載記事はホームページに転載される事があります。本誌またはホームページからの無断転載は、かたくお断りします。 印刷 関東図書株式会社